



存在動詞 van

ハンガリー語の動詞は、語尾が主語の人称と数によって、6通りに変化します。変化しない部分を語幹、人称と数を表わす部分を人称接尾辞と呼びます。多くの動詞は、3人称単数形が語幹の形と一致します。辞書には、3人称単数形が見出し語として掲載されています。

● 存在動詞 van の活用

「～がある、～がいる」という存在の意味を表わす動詞 van は、次のように不規則変化をします。3人称に男性形と女性形の区別はありません。

		人称代名詞	存在動詞
単数	1人称	én 私	vagyok
	2人称	te 君	vagy
	3人称	ő あの	van
複数	1人称	mi 私たち	vagyunk
	2人称	ti 君たち	vagytok
	3人称	ők あの	vannak

● 存在文

「私はここに(itt)います」「君はここにいます」という表現は、それぞれ次のようになります。主語となる人称代名詞は、強調するときをのぞいて、ふつう省略します。主語が誰であるかは、動詞の活用語尾をみればわかるからです。

単数	1人称(én)	Itt vagyok. 私はここにいます。
	2人称(te)	Itt vagy. 君はここにいます。
	3人称(ő)	Itt van. 彼はここにいます。
複数	1人称(mi)	Itt vagyunk. 私たちはここにいます。
	2人称(ti)	Itt vagytok. 君たちはここにいます。
	3人称(ők)	Itt vannak. 彼らはここにいます。

●否定文

否定文は、否定する要素の前に否定詞 *nem* をおいてつくります。「ない、いない」と存在を否定する場合は、存在動詞のまえに否定詞 *nem* をおきます。*ott*「そこに」は後ろに移動します。ただし、*van* の否定は *nincs*、*vannak* の否定は *nincsenek* となります。

単数	1人称	Nem vagyok ott. 私はそこにいません。
	2人称	Nem vagy ott. 君はそこにいません。
	3人称	Nincs ott. 彼はそこにいません。
複数	1人称	Nem vagyunk ott. 私たちはそこにいません。
	2人称	Nem vagytok ott. 君たちはそこにいません。
	3人称	Nincsenek ott. 彼らはそこにいません。

●「AはBである」

「AはBである」という文は、AとBをならべてつくります。このとき、AとBを結びつける動詞(英語の *be* 動詞に相当するもの)は必要ありません。

Péter diák. ペーテルは学生です。

主語が3人称の代名詞のときも、動詞は必要ありません。

(ő) *diák.* (彼は)学生です。

ただし、主語が1人称と2人称の代名詞のときは、存在動詞 *van* の活用形を使います。主語の代名詞はふつう省略します。

Diák vagyok. 私は学生です。

Diák vagy. 君は学生です。

「AはBでない」という否定文は、Bの前に否定詞 *nem* をおいてつくります。

Péter nem tanár. ペーテルは先生ではありません。

存在動詞がある場合は、その前に *nem* をおきます。語順に注意しましょう。

Nem vagyok tanár. 私は先生ではありません。

「ペーテルは学生です」のように、*diák* が具体的な個別のものをさしているのではなく、「学生」という概念を表わしているようなとき、冠詞はつきません。